

第4学年 異文化交流 Let's enjoy FUROSHIKI!!

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 古石 卓也

1 はじめに

私がこの体験型海外教育実地研究に参加したのは、外国の子どもたち相手に授業を行うことや、現地の学校訪問など普段では決して経験できないような貴重な体験をすることができるという点がとても魅力的に感じたからである。

また、現行の学習指導要領から外国語活動が新設されが、これまで海外へ訪問したことがなく、外国の文化や人々に触れるといった経験をあまりしてこなかった。よって、今回の体験を通じて外国の文化を肌身で感じ、今後教師になった時のための知見を広げるよい機会になるとも考え、この体験型海外教育実地研究に参加することを決めた。

2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	宿泊地
5/10	火	渡航までの日程確認 パスポート確認 ESTA・保険の確認 授業研究テーマの設定方法		
5/25	水	授業研究テーマ案の交流 教室英語図書紹介		
6/9	木	学習指導案の検討		
6/30	木	学習指導案の検討 渡航のための諸手続き		
7/10	日	学習指導案の検討および教材・教具の作成 渡航のための諸手続き		
7/29	金	渡航準備 保険説明		
9/3	土	書類提出 報告書作成および発表会の打ち合わせ 直前打ち合わせ		
9/12	月	直前打ち合わせ		
7/9	土	第6回学校間交流国際フォーラム		
Sep 17	Sat	Hiroshima 0745-0925 Narita(NH-3112) Narita 1105-1040 Washington Dulles(NH-7144) Washington Dulles 1235-1340 Raleigh(NH-7144) RDU Airport→City Htel & Bistro Transportation; Dr. John Tucker is arranging vehicles and driver for us.		<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 Tel; 877-271-2616 Greenville
18	Sun	Transportation; Dr. Sandra Warren Will arrange the transportation for us.	Preparation of Lessons Meeting with teachers of each school at	Greenville
19	Mon	City Hotel→Each School	School Visit	Greenville

		Transportation; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Elmhurst E.S.(K-5) Wahl-Coates E.S.(K-5) C. M. Eppes J.H.S(6-8) Observation / Teaching	
20	Tue	City Hotel → Each School Transportation; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Morning; School Visit Observation / Teaching Afternoon; Resource Center in ECU	Greenville
21	Wed	City Hotel → St. Peter's Catholic School → Clarion State Capital Transportation; Dr. John Tucker is arranging vehicles and drivers for us.	Morning; School visit Observation / Teaching Afternoon; Resource Center in ECU	Clarion State Capital 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel; 919-832-0501 Fax; 919-833-1631
22	Thu	Transportation; On foot	School Visit) *Exploris M.S.(6-8) *Museum Visit	Raleigh
23	Wed	Hotel → RDU; Taxi Raleigh 1025-1130 Washington Dulles (NH-7145) Airport → Hotel; Taxi	Traveling to Washington DC Study on the America Culture	Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W.Washington, DC 20005 Tel; 202-842-1300 800-424-1140 Fax; 919-833-1631
24	Sat	Transportation; Subway	Study on the American Culture at Historial Place	Washington DC
25 26	Sun Mon	Hotel → Airport; Taxi Washington Dulles 1223-1515 Narita(NH-1) Narita 1630-1805 Hiroshima(NH-3111)		

3 実地研究授業

3. 1 単元等名 第4学年 異文化理解 「Let's enjoy FUROHIKI!!」

3. 2 事前準備

① 単元設定の理由

日本の伝統的な道具である「風呂敷」を体験させることで、日本の「もったいない」という独自の考え方をアメリカの子どもたちに紹介するために本単元を設定した。「もったいない」という言葉は、2004年ノーベル平和賞受賞者であり元ケニア共和国環境副大臣であったワンガリ・マータイさんによって世界的に紹介された言葉でもある。このような考え方を紹介することにより、日本の文化に興味をもってもらえればと考えた。また、ただ日本の文化に興味を持つだけでなく、現地の子どもたちにとっての母国であるアメリカに関しても、同様に伝統的な考え方から学ぶことが多くあることを考えさせるきっかけになればと考えた。

② 準備物

全員が活動に参加できるように人数分の風呂敷を準備した。子どもたちが行う様々な包み方が掲載してあるワークシートを準備した。各手順を図とことばで説明することにより、現地の子どもたちでも理解しやすいように作成した。「お使い包み」に関しては全員で行う活動を想定していたので、全員分のプラスチック製の弁当箱を準備した。その他の包み方に必要となる、ペットボトルやおもちゃのボールに関しては何人かで交換して活動を行わせることを想定していたので、全員分ではなくある程度の個数を準備した。導入部分で、風呂敷や柄に含まれる願いや想いなどを伝えるために、日本的な金魚の柄の風呂敷や、様々な風呂敷の柄を印刷したものを黒板提示ように準備した。また、「お使い包み」はクラスで足並みを合わせて全員で行わせるため、各手順を拡大したものを準備した。

3. 3 学習指導案

Lesson Title : Let`s Enjoy “FUROHIKI”!!

Lesson Author : Takuya Furuishi

Date : September 2011

Grade Levels : 5th

Subject : Culture

Description : In this lesson, students learn Japanese mottainai culture by using Furoshiki.

Goal : This Lesson will encourage students to understand usefulness of Furoshiki.

It will also help them understand Japanese mottainai culture.

Objectives :

1. Understand Japanese mottainai culture
2. Enjoy using furoshiki

Materials, Resources and technology : furoshiki, pictures of furoshiki's design, square box, bottle, ball, worksheets

Procedure :

Activity	Instruction of teacher	Materials
<p>1. Know about Furoshiki</p> <p>2. Understand how to wrap square box by furoshiki;</p> <p>3. Challenge to wrap various things by furoshiki.</p> <p>4. Understand Japanese mottainai cultur</p>	<p>1. Explain about Furoshiki, the way to use furoshiki and meaning of furoshiki's design. Tell Today`s activity; use Furoshiki to wrap various things.</p> <p>2. Explain how to wrap square box by furoshiki .</p> <p>3. Help children who can't wrap various things. And show convenience of Furoshiki wrapping various things.</p> <p>4. Tell children that Japanese have mottainai culture and furoshiki is expression of Japanese mottainai culture.</p>	<p>1. Explain about Furoshiki, the way to use furoshiki and meaning of furoshiki's design. Tell Today`s activity; use Furoshiki to wrap various things.</p> <p>2. Explain how to wrap square box by furoshiki .</p> <p>3. Help children who can't wrap various things. And show convenience of Furoshiki wrapping various things.</p> <p>4. Tell children that Japanese have mottainai culture and furoshiki is expression of Japanese mottainai culture.</p>

3. 4 授業の実際

(1) 導入 ～風呂敷について知る～

簡単に自己紹介を行った後に、実際の風呂敷を用いて風呂敷の説明を行った。「風呂敷」ということばを知っているかという質問をなげかけたが、知っている子どもは一人もいなかった。風呂敷の使い方だけではなく、様々な風呂敷の柄を示すことにより、その柄に含まれる昔の人々の想いや願いを伝えた。また、風呂敷は環境にもよいものであり、近年日本では再び注目を集めているものであるということも伝えた。



(2) 展開 ～風呂敷で様々なものを包む活動～

様々な風呂敷を用いた包み方が掲載されたワークシートと風呂敷を全員に配布した。風呂敷を実際に手にした児童らは大変喜んでいる様子だった。

まずは「お使い包み」と呼ばれる最も基本的な風呂敷の包み方をクラス全員で行うこととした。その際、子どもが今どの手順を行っているかを明確に把握するために、各手順を拡大印刷したものを準備し、TAの学生に提示してもらった。子どもたちは「結ぶ」という活動に慣れていないようで、基本的な包み方とはいえ試行錯誤しながら活動している様子であった。

次に、ワークシートに掲載してあるその他の包み方を行った。具体的には、ボールを用いた包み方である「すいか包み」と「うさぎ包み」、ペットボトルを用いた包みかたである「びん筒み」、お使い包みでの弁当箱を用いた「弁当包み」の5種類を準備し、この中のどの包み方を選ぶかは子どもたちに自由に選ばせることとした。最も児童に人気のあった包み方は「びん筒み」と「うさぎ包み」であった。ペットボトルとボールに関しては、クラス全員分は準備していなかったため、包みたいものが包めないといった子どもが出てくる状況となってしまった。

子どもたちが活動している間は机間指導を行い、適切に包めていない子どもに対してアドバイスを行い、子どもからの質問に対応した。



(3) 終結 ～もったいない文化の紹介～

活動を行った後、授業のまとめとして古くから日本に伝わる独自の考え方のひとつである「もったいない」という考え方を紹介した。「もったいない」という言葉は「単元設定の理由」で述べたように、ワンガリ・マータイさんによって世界的に紹介された言葉であったので、耳にしたことがある子どもが数名はいると想定していたが、実際のところクラスの誰も知らないといった状況であった。紹介するにあたって、「もったいない」という考え方はどのような考え方なのかということ、英語で近い意味のことばや、「もったいない」という言葉を用いる具体的なシチュエーションを利用し説明した。また、本授業で取り上げた風呂敷も「もったいない」という考え方の一つの表れであることにもつなげて説明した。

しかし、風呂敷を包む活動に時間を多くとりすぎた結果、まとめの時間が十分にとれなかったため、「もったいない」という紹介も十分に出来ず、子どもたちに伝わったかどうか疑問が残る結果となってしまった。

3. 5 考察

風呂敷を用いて様々なものを包むといった活動自体、子どもたちは楽しんでくれていたように思われる。日本の文化に触れるといった観点から考えると、「風呂敷」を授業に取り入れたことは有効的であったといえる。しかし、授業構想段階で最終目的としていた「もったいない」という考え方の紹介は十分に行うことができなかった。これは、前述したように活動時間を長

く取りすぎたため、「もったいない」という考え方を紹介する時間を十分にとれなかったことが原因である。アメリカの子どもたちは「結ぶ」といった動作に不慣れであり、予定していたよりも大幅に活動に時間がかかってしまった。また、活動中に積極的に質問を行う子どもが多く、かつ自分の英語能力の無さから、一人では全員の質問に対応しきれない部分があったため、TAの学生や引率の教員にも参加してもらうような状況となってしまった。このことから考えると、アメリカの児童が活動をよりスムーズに行えるように何らかの手立てが他に必要だったと考えられる。

また、ボールとペットボトルの数が十分ではなかったため、包みたいものが包めない子どもが出てきてしまったので、ボールとペットボトルもクラス全員分準備をしておく必要があったと考えられる。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4. 1 教育観の変容

今回の体験型実地研究が初めての日本以外の学校現場の訪問となった。現地の学校を訪問する前までは、どこの国も日本のような教室で、一斉授業を行っているものと考えていたので、国が違うことで学校の雰囲気や授業スタイルが大きく異なることにとても驚いた。現地の学校の教室は日本以上に装飾などがしてあり、日常の目標、規律などがいたるところに掲示してあり、このような点でも日本との違いを感じた。

4. 2 自分自身についての変容

授業準備で「風呂敷」や「もったいない」ということに関して調べていくなかで、自分自身改めて日本の伝統的な考え方の素晴らしさを感じることができた。また、異文化教育を行っていくうえで、教材の工夫ももちろん大切なことであるが、それ以上に教師の英語力が重要になってくることを痛感した。しかし、言葉の壁があるなかでも、子どもとコミュニケーションを取れた瞬間には大きな喜びを感じることができた。

4. 3 グローバルマインドに関する変容

今回の体験型実地研究が自分にとって初めての外国訪問であったため驚きの連続であった。食文化の違いや、日本では当たり前の「いただきます」、「ごちそうさま」といった挨拶がないことが特に印象的であった。また、アメリカの人々は日本の人々よりも、積極的にコミュニケーションを図ろうとする特徴があり、かつ感情表現も豊かであるように感じた。国際社会で活躍していくためには、このようなアメリカの人々のような積極的なコミュニケーション方法を日本の人々が見習う必要があるといえる。しかし、「いただきます」のように、外国にはない日本の文化のすばらしさを認識することも同時にできた。この体験型実地研究を通じて様々な面での自分の考え方や視野を広げることができたと感じている。

5. おわりに

この体験型海外教育実地研究での経験を、今後指導するであろう未来の教え子のために生かしていきたいと考えています。ご指導していただいた先生方や、現地の先生方、GPSCの関係の方々には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。